

「体の麻痺した人を癒す」

2023年02月10日

イエスは彼らの信仰を見て、「人よ、あなたの罪は赦された」と言われた。ところが、律法学者たちやファリサイ派の人々は論じ始めた。「神を冒瀆するこの男は何者だ。罪を赦すことができるのは、ただ神だけだ。」イエスは、彼らの考えを見抜いて言われた。

「何を心の中で考えているのか。『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、体の麻痺した人に、「あなたに言う。起きて床を担ぎ、家に帰りなさい」と言われた。その人はすぐさま皆の前で立ち上がり、寝ていた床を担いで、神を崇めながら家に帰って行った。（ルカ福音書 5：20～25）

ある日、主イエスが教えておられると、ファリサイ派の人々や律法の教師たちが周りに座っていた。彼らはガリラヤとユダヤの町や村から、また、都エルサレムからも来ていた。主イエスの力ある言動が民衆の支持を得て、自分たちの勢力が失われることを恐れ、主イエスの律法違反を監視し、見つければ、即座にあげつらうために来ていたのである。主イエスは神の力が働いて、いつものように、病気を癒しておられた。

すると、体の麻痺をした人を床に乗せて運んで来て、家の中に入れて、主イエスの前に置こうとした。ところが、大勢の人がいて、運び込むことができなかった。彼らは、屋根に上り、瓦を剥がして、病人を床ごと群衆の中につり下ろし、主イエスの前に置いた。こんなことができるのであろうか。当時、仮庵の祭りは、自宅の屋根の上に仮庵を立てて、守っていたそうで、どの家も屋根に上る階段をつけていた。その階段を上ったのであろう。そして、屋根をぶち抜いて、病人をつり下ろした。上から、ごみとほこりが舞い降りた。彼らは、このような非常識をしてまで、病人を主イエスに癒してもらいたかった。病人が癒しを求めたのであろうが、それに応えた友人たちの友情は凄まじい。彼らは健康な時から、信頼し合う関係を持っていたに違いない。主イエスは彼らの信仰を見て、「人よ、あなたの罪は赦された」と言われた。これを聞いた律法学者たちとファリサイ派の人々は、「神を冒瀆するこの男は何者だ。罪を赦すことができるのは、ただ神だけだ」と、心の中で論じ始めた。確かに、罪の赦しは神だけができることである。主イエスは、彼らの考えを見抜いて、「何を心の中で考えているのか。『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう」と言われた。「そして、体の麻痺した人に『あなたに言う。起きて床を担ぎ、家に帰りなさい』と言われた。」すると、彼は即座に、皆の前で立ち上がり、寝ていた床を担いで、神を崇めながら家に帰って行った。人々は皆、驚き恐れ、神を崇め、「今日、驚くべきことを見た」と言い合った。

著者ルカは、主イエスは罪を赦す権威を持ち、それゆえに「起きて、歩け」と宣言し、それを実現させる方であると証言している。床に乗せられて人に運ばれる人生から、自分の足で立って、歩くようになる。人は「神不在」の罪の中にあると、暴力に走って自己実現しようとするか、虚無に飲み込まれ自己喪失する。罪の赦しとは、どんな命をも「よし」という神からの是認をいただくことである。是認された者は、自分の人生を見出し、それを懸命に生きる者となる。主イエスがもたらした罪の赦しの福音は「私」になって、「私自身」を全うすることへの呼び出しである。